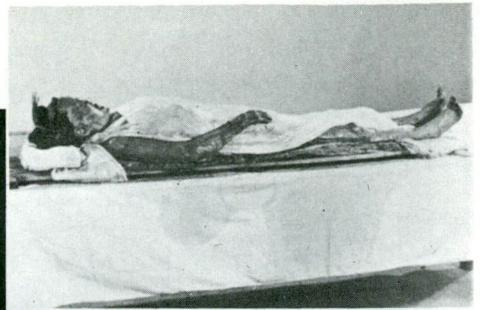


文部省選定



↑馬王堆墳墓から発掘された2000年前の遺体
←遺伝子保存のため種子を缶詰にして貯蔵する

企画 科学技術庁

科学映画

記録 カラー27分

¥ 165,000

保存を考える

■すいせんのことば

科学評論家 岡部昭彦

地下何十メートルにも及ぶ壮大な発掘は、2000年以上昔の人びとの生活を無傷のまま白日の下にさらした。中国の馬王堆の発掘である。木棺の中に眠る婦人の遺体は、医学検査によって彼女の健康状態を診断できるほどに完全なものであり、胃袋から発見されたマクワウリの種子からは死亡の季節まで判った。完璧な保存にまず、観る者は驚かされる。私たちは数多くの情報をそこから読みとることができる。目を見張られるような、すばらしい成果である。

保存という営みは高等動物にもあるが、その対象が食糧だけでなく文化にまで及ぶのは人間だけである。目的、範囲、方法も時代とともに変わり、進歩する。古いものの保存もあれば、未来へ向っての保存もある。何を保存し、何が価値あるものかを判断するのは人間

である。その意味で、保存とは時間を軸とする最も人間的な行為であるということができるかもしれない。

数多くの食品や医薬品の保存、それには物質の保存から生命の保存まであり、科学技術の粋が傾注されていることをこの映画は教えてくれる。栽培植物の種子を保存する遺伝子銀行のようなものもある。一方、モノでない無形の文化についても、写真や文字による記録保存の先端は、人工衛星とコンピュータから地球上の環境がひと目でわかるところまで来ている。

“保存の経済学”という言葉が使われ出したこのごろである。この映画は、多方面にわたる、一見雑然とした人間社会の諸活動を、“情報の保存”という考え方によって見事に整理した。豊かに盛られた素材から、アクチュアルな保存のイメージを考えさせてくれるフィルムであるといえよう。

製作

株式会社

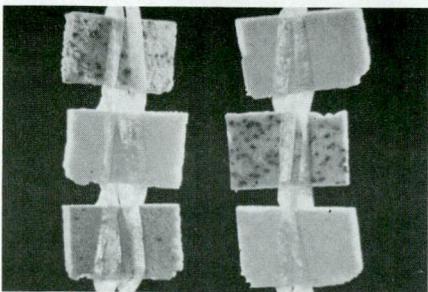
桜映画社

東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル
〒151 TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666

配給



□馬王堆の保存 2000年間保存されていた遺体や遺品を発掘して、当時の生活を知る。



□物質の保存 伝統的な保存食品には、乾燥させて保存性を高めるものが多い。



□生命の保存 -160℃で保存された人間の細胞は、解凍すると2〜3時間で生命活動を始める。



□情報の保存 人工衛星のとらえた各地の環境情報は、数値の形で磁気テープに保存される。

■製作スタッフ

企 画	……………	科学技術庁
製 作	……………	村山 英世
脚本・演出	……………	杉山 正美
撮 影	……………	春日 友喜
照 明	……………	一ノ宮 晃
解 説	……………	小林 恭治

■製作意図

時間を止めて、変わらない姿のまま物を保存することは昔から人間のつきない願望であった。この「保存」といういかにも人間らしい努力と工夫を科学の眼でとらえなおしたのがこの作品である。

日常生活の身近なものから、現代科学の粋を集めたものまで、総合科学の見方によって「保存」という行為とそのメカニズムを明らかにするためさまざまなアプローチをこころみた。

そして人間にとって「保存」とはいったい何なのか、何をどのように保存しなければならないかを考えていこうとする作品である。

■この映画の利用対象

中学・高校（理科・技術・家庭）

大学・青年・成人（一般教養）

■利用上の留意点

食物をはじめとして、我々の身近には保存しなければならないものが数限りなくある。そのために、各種各様の工夫された食物や容器がたくさんある。そしてこれらのものは我々の生活をより豊かなものにしていく。

この映画は、様々な保存について、貴重なフィルムや特殊な撮影等を用いてそれらをわかりやすく、興味深いものにしていく。一般教養として利用するほか学校教材としても理科・家庭科というような教科にとらわれないで利用することができるが、理科には理科としての、家庭科には家庭科としての豊富な話題が提供されることであろう。

■内容

①馬王堆の保存

1972年、中国で発掘された馬王堆古墳は、その優れた保存技術によって世界を驚かせた。その遺物に、古代から人々がかもちつづけてきた「生命の保存」「物質の保存」そして「情報の保存」の願望をみることが出来る。

②物質の保存

現代の身近なところでの保存の工夫をみると、保存食品など、昔から受け継がれ、現代もなお使われているものが数多くあることに気がつく。そのひとつに乾燥が保存の重要な方法になっていることに気がつく。

③生命の保存 I

食品の保存に利用されている凍結乾燥法や冷凍法は、菌や細胞を生きたまま保存する生命保存の方法として活用され、医学の研究や治療におおいに役立っている。

④生命の保存 II

種を残すこと——これも自然がつくった巧妙な保存の方法といえる。二千年前の種子から、花を咲かせることに成功した大賀ハスは、種子が果皮によって守られた天然の保存のカプセルであることを教えてくれる。

農林省の原種保存のための種子貯蔵庫では低温、乾燥、密閉という保存の条件を人工的に作りだして種子の遺伝子情報を保存している。

⑤情報の保存

写真は、いつまでも変わらない姿を保存することを可能にした。また本をフィルムに変え保存するマイクロフィッシュや磁気テープなど情報を簡略化し長持ちさせる技術は日ごとに進歩している。

数値として人工衛星から地上に送られている衛星写真も新しい情報保存の方法である。日本各地の環境情報も居ながらにして一目でわかる。

今後、人類は何を、どのように保存していく方法を発見しようとしているのか、あらためて考えてみよう。